

26番	原田 学 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1、くらしを守る公共交通の充実を</p> <p>【質問趣旨】</p> <p>高齢化社会の中で「買い物難民」など瀬戸市でも、実際の事例も伺っている。一方、気候変動の原因となるCO2の削減がいわれる中で自家用車の利用を減らす取り組みもされている。そこで、ますます、公共交通の充実が求められている。誰でも、より利用しやすい公共交通の在り方を問う。</p>	<p>(1) 瀬戸市のコミュニティバスの在り方を問う。</p> <p>(2) 瀬戸市における公共交通の現状はどのようなか、どう改善をはかればよいか伺う。</p>	<p>① コロナ禍の中、「密」を避ける事から現在のコミュニティバスの乗降客は減少しているが、それ以前、コミュニティバスの乗降客は増加傾向にあったが、市はその理由をどのように分析、評価しているか。</p> <p>② 「買い物難民」や「通院難民」など、市内でもその事例を伺うが、公共交通（コミュニティバス）の目的は、買い物・通院をはじめ、市民の日常の生活を支えることにあると考えるが、市のコミュニティバスは誰でも、どこでも、いつでも、利用しやすい公共交通として、市民のくらしをどのように守ってきたか。</p> <p>③ 公共交通は、子どもの通学の足として、また、買い物に出かけることは、地域経済の活性化や、観光客の市内循環や窯めぐりなど人と物の交流を支える社会的システムです。そのシステムを土台として教育や事業、医療、観光が支えられています。公共交通は地域を支えるインフラとして考えるべきではないか。また、そのために自治体の果たす役割は大きなものがあると考えられるべきではないか。</p> <p>① この間のバス路線の大きな変化として陶生病院への乗り入れがされた事は、市民の要望でした。本地線や上之山線などは、みどりのまち病院へ経由することによって路線の延長となった。その結果はバスの便数が削られることとなった。便数については元に戻すべきと考えるがどうか。このような事例は品野3線も同様に起きている。</p> <p>② 下半田川線、曾野線は交互に運行され、本地線は隔日運行となっているため市民が通院や買い物など日常の生活をバスの運行に合わせている。しかし本来は日常生活の中にバスの運行が組み入れられることが必要であり、毎日の運行とすべきと考えるがどうか。</p> <p>③ こうはん線、曾野線など、乗客の乗りのこしがあると伺う。バスの大きさを検討</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

26番	原田 学 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具には「体的質問内容 (小項目)
	<p>(3) 公共交通予算の枠内では市民の足は守れない。交通予算の枠をどう考えるか。</p> <p>(4) コミュニティバスを市民の暮らしに寄り添った運</p>	<p>するなど、乗りのこしの解消を図るべきと考えるがどうか。</p> <p>④陣屋地域や長根地域などコミュニティバスの走っていない地域では、運行の要望が出されている。コミュニティバスを全ての連区で走らせ、高齢者や交通弱者の足と暮らしを守る公共交通のネットワークを作るべきと考えるがどうか。</p> <p>⑤高齢者にとっては坂があると、たとえバス停まで300m以内であっても、バス停までの歩行が困難な事例もある。坂の多い瀬戸市においては改めて300m以内の中にある空白地域を見直し、バス停の位置やコースの設定を行う必要があると考えるがどうか。</p> <p>⑥かつては地域の住民の予約をとってデマンドバスが運行されていましたが、試行で終わっています。再度、その教訓を生かし、地域住民の足を守るデマンドバスの再検討をすべきと考えるがどうか。</p> <p>①地域の足を守るコミュニティバスの予算については大枠でバス5台で5400万の予算があり、(2)で示したように路線の延長がされれば便数が削減される関係となって表れるが、なぜ、このような上限が設定されているか伺う。</p> <p>②路線の延長も便数の増加もともに具体化するためには枠型の予算配分を改める必要があると考えるがどうか伺う。</p> <p>③制度開始から買い物難民・通院難民をなくすための公共交通の役割であることから考えても、市民の暮らしに寄り添う移動手段とするためにもその上限を外すべきと考えるがどうか。</p> <p>①特別交付税は全国のコミュニティバスと基幹バスの運営を支える役割を果たしている。市はH31年度(2019年度)総務省に1億1800万円の申請をしており、交付</p>

(2 ページ)

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

26番	原田 学 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質した問内容 (小項目)
	<p>営とするために、その財源について伺う。</p>	<p>として同額を交付されていると認識しているがどうか。</p> <p>②他の自治体では、特別交付税の申請に合わせてコミュニティバスの運営についての改善が行われている。このように交付税の活用によって、瀬戸市としては、先に述べた様な上限の考え方を改め、路線と便数については、より充実した内容とすべきと考えるがどうか。</p> <p>③特別交付税を活用すれば、路線を増やすことができると考える。その場合は、市民に身近な路線を提示し、より市民に身近なネットワークをつくることのできる。特別交付税の活用をはかり、交通弱者が住みやすい街づくりをめざすべきと考えるがどうか。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。